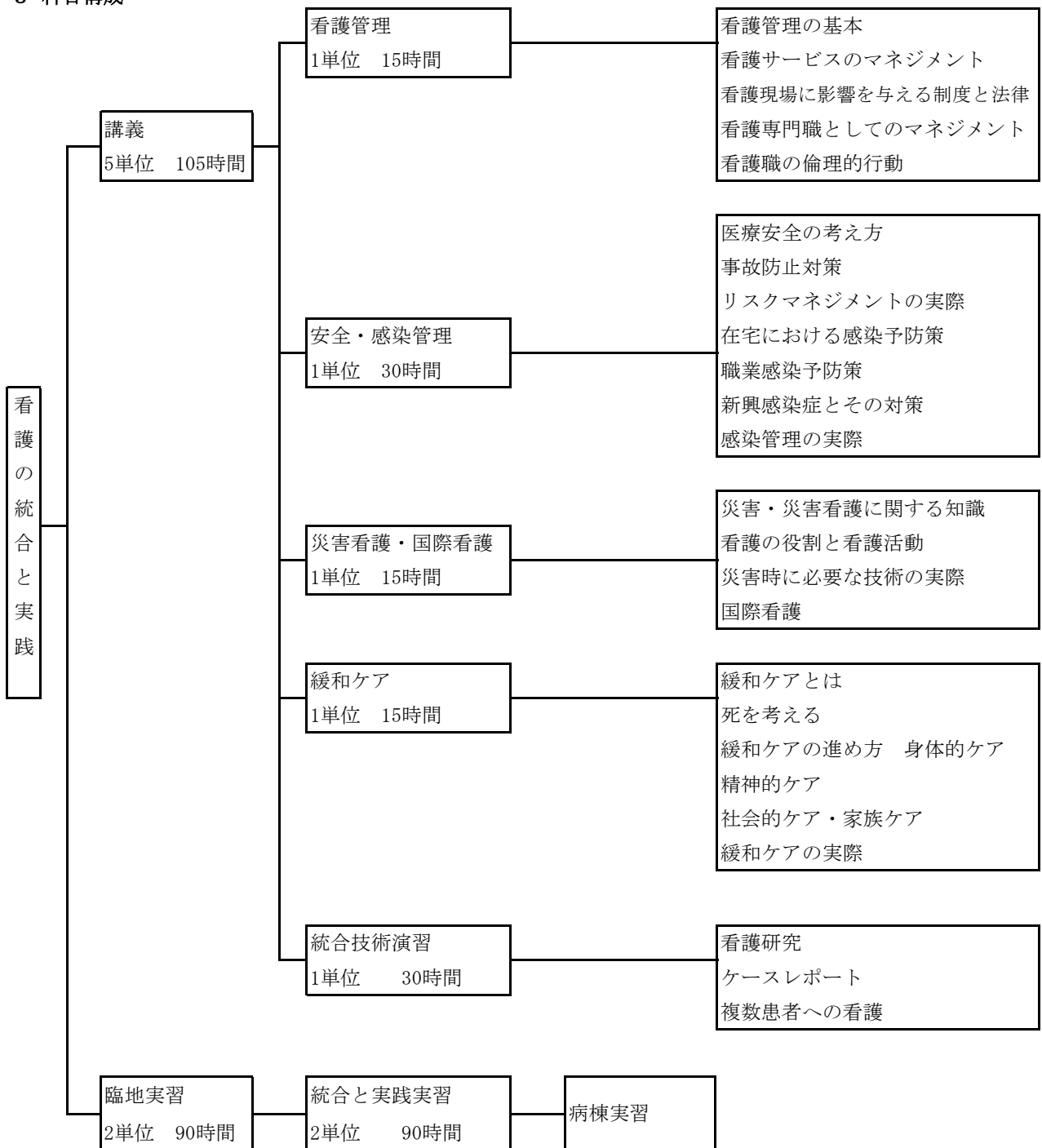


<専門分野>

看護の統合と実践

- 1 目的：組織における看護師の役割を理解するとともに、各看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護を提供するための判断力・実践力を養う。
- 2 目標：(1) 看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。
(2) 医療安全・感染管理の基礎的知識を学ぶ。
(3) 災害看護に必要な基礎的知識・技術を身につけるとともに国際看護の必要性を学ぶ。
(4) 緩和ケアに必要な知識・技術を学ぶ。
(5) 臨床に近い擬似学習の中で、基礎的な知識と技術を統合し看護実践力を高める。

3 科目構成



授業 科目	看護管理	担当 教員	専任教員☆① 外部講師☆ ②看護部看護師 ③医療福祉連携推進課 看護対策監	単位数	1	時期	3年次 7月～
				時間数	15		
<p>目的：看護をマネジメントできる基礎能力を養う。</p> <p>目標：1) ケアのマネジメントを理解する。 2) 看護サービスのマネジメントを理解する。 3) マネジメントに必要な知識と技術を理解する。 4) 看護専門職としての職業倫理（責任と任務）を理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	看護管理の基本	社会の変化と看護職の役割 協働 看護マネジメントとは			講義	専任教員	
2	看護サービスの マネジメント1	組織で取り組む看護活動			講義	看護部看護師	
3	看護サービスの マネジメント2	看護の質向上のための取り組み			講義		
4	看護サービスの マネジメント3	看護と経営 業務のマネジメント クリニカルラダーの実際			講義		
5	看護現場に影響を与え る制度と法律	看護と法令 看護と行政組織 看護と専門機関・職能団体 保健医療福祉政策の動向			講義	看護対策監	
6	看護専門職としての マネジメント	セルフマネジメント 看護専門職とキャリア			講義	専任教員	
7	看護職の倫理的行動	看護職の倫理綱領 看護の場で生じやすい倫理上の問題			講義		
8	試験（1h）						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 看護管理 看護の統合と実践①（メディカ出版） 看護学概論 基礎看護学①（メディカ出版）					
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験		①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③看護師として医療機関、行政機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業 科目	安全・感染管理	担当 教員	専任教員☆① 外部講師☆ ②看護師 ③感染管理認定看護師	単位数	1	時期	3年次 5月～
				時間数	30		
<p>目的：専門領域での知識・技術をもち、看護実践できる能力を養う。</p> <p>目標：1) 医療安全の基本的な考え方と事故防止について理解する。 2) リスクマネジメントの実際を理解する。 3) 科学的根拠に基づいた感染防止の技術を学ぶ。 4) 感染管理の実際を理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	医療安全の基本的考え方	看護事故防止の考え方		講義	専任教員		
2	事故防止対策1	KYTとは 療養上の世話の事故防止		講義			
3	事故防止対策2	患者に投与する業務における事故防止		講義			
4	事故防止対策3	継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止		講義			
5	医療安全とコミュニケーション	事故防止のためのコミュニケーション		講義			
6	組織的な安全管理	組織としての安全対策・法的責任 コンフリクトマネジメント		講義			
7	リスクマネジメントの実際1	リスクの把握・分析・対応・評価		講義	看護師		
8	リスクマネジメントの実際2	現場におけるリスクマネジメントの実際 心理的安全性		講義			
9	リスクマネジメントの実際3	標準予防策と感染経路別予防策 CDCガイドライン 処置別感染予防策		講義	感染管理 認定看護師		
10	在宅における感染予防策	在宅医療処置の感染予防策		講義			
11	職業感染予防策	職員を守る感染防止策 ワクチン接種		講義			
12	新興感染症とその対策	コロナ感染症・HIV・SARS・輸入感染		講義			
13	感染管理の実際1	院内サーベイランスの実際 感染発生データの収集・分析・評価・実践		講義			
14	感染管理の実際2	感染管理看護師の役割		講義			
15	まとめ・試験				専任教員		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 回数1～8 医療安全 看護の統合と実践（2）（医学書院） 回数9～14 アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学（11）（医学書院）					
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験		①②看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③感染管理認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業 科目	災害看護・国際看護	担当 教員	外部講師☆	単位数	1	時期	3年次 10月～
			①災害看護活動推進員 ②藤垣 恵	時間数	15		
<p>目的：災害看護における基礎的能力を身に付けるとともに、国際看護の必要性が理解できる。</p> <p>目標：1) 災害の概念、災害時の健康障害について理解する。</p> <p>2) 災害急性期の看護活動の実際を理解する。</p> <p>3) トリアージの基本的知識と方法について理解する。</p> <p>4) 国際看護の現状や動向、看護活動の実際を知る。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	災害・災害看護に関する知識	災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア		講義	災害看護 活動推進員 /看護師		
2	看護の役割と看護活動	関係機関、他職種との連携 在宅・地域における連携 災害ボランティア 避難所における看護ケア		講義			
3	災害時に必要な技術の実際1	救急技術(応急処置、循環管理、外傷治療、搬送)の実際 災害時に多い傷病名と応急処置		講義			
4	災害時に必要な技術の実際2	心肺蘇生の実際		演習			
5	災害時に必要な技術の実際3	トリアージの実際		演習			
6	国際看護 1	看護とグローバリゼーション 国際救援活動の基本理念		講義	藤垣		
7	国際看護 2	国際救援活動の実際とマネジメント		講義			
8	試験 (1h)				災害看護 活動推進員 /看護師		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践 (3) (医学書院)					
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験		<p>①災害看護活動推進員、看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p> <p>②助産師として医療機関に勤務し、日本赤十字社、JICA、リベリア母子保健人材育成事業に参加した経験を活かした授業展開をする。</p>					

授業 科目	緩和ケア	担当 教員	外部講師☆ ①医師	単位数	1	時期	3年次 10月～
			②緩和ケア認定看護師 ③看護師	時間数	15		
<p>目的：緩和ケアを理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>目標：1) 生と死を考える。</p> <p>2) 緩和ケアの目的・意義を学ぶ。</p> <p>3) 緩和ケアとしての身体的・精神的・社会的・スピリチュアル・家族ケアの実際を理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	緩和ケアとは	緩和ケアとは何か 緩和ケアの歴史・現状 疼痛緩和 チームアプローチ		講義	医師		
2	死を考える	死を考える 死に直面した人間の現実、死の看取りと医療者		講義	緩和ケア 認定看護師		
3	緩和ケアの進め方 身体的ケア	癌性疼痛、全身倦怠感、呼吸困難等		講義			
4	精神的ケア	不安・恐怖、怒り、抑うつ、せん妄等		講義			
5	社会的ケア・家族ケア	信頼関係の確立と問題の認知 グリーフケアの方法		講義			
6	緩和ケアの実際 1	スピリチュアルケア		講義			
7	緩和ケアの実際 2	スピリチュアルケア		講義			
8	試験（1h）				緩和ケア 認定看護師		
評価方法		回数2～5 筆記試験					
参考文献と資料		テキスト： 緩和ケア（医学書院） 生と死の看護論（メヂカルフレンド社）					
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験		①医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②緩和ケア認定看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					

授業科目	統合技術演習	担当 教員	専任教員☆	単位数	1	時期	3年次
				時間数	30		4月～
<p>目的：臨床実践に近い状況において、基礎的な知識と技術が統合できる。</p> <p>目標：1) 看護実践における研究の意義・目的を理解し看護研究のプロセスを学ぶ。</p> <p>2) 事例を通して、自己の知識・技術を振り返ることができる。</p> <p>3) 複数の模擬患者がもつ看護上の問題を明確にし、根拠に基づいた援助の優先度が分かる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	看護研究 1	看護研究の意義 看護研究の種類		講義	専任教員		
2	看護研究 2	研究疑問（リサーチクエスション） 看護研究における倫理		講義			
3	看護研究 3	文献クリティーク 引用・参考文献の記載方法		講義			
4	看護研究 4	ケースレポートの進め方 論文の記載方法		講義			
5	ケースレポート 1	原著論文の作成 1		講義			
6	ケースレポート 2	原著論文の作成 2		講義			
7	ケースレポート 3	原著論文の作成 3		講義			
8	ケースレポート 4	発表原稿の作成 ケースレポート発表準備・リハーサル		講義			
9	ケースレポート 5	ケースレポート発表 1		講義			
10	ケースレポート 6	ケースレポート発表 2 ケースレポートから学んだこと		講義			
11	複数患者への看護 1	複数受け持ち患者の事例展開 1		講義	専任教員		
12	複数患者への看護 2	複数受け持ち患者の事例展開 2		講義			
13	複数患者への看護 3	複数受け持ち患者の事例展開 3		講義			
14	複数患者への看護 4	引継ぎ体験		演習			
15	複数患者への看護 5	多重課題・時間切迫事例の展開		演習			
評価方法		回数1～4	記録物(ワーク用紙)	20点			
		回数5～10	記録物(ワーク用紙)・発表・態度	45点			
		回数11～15	グループワークなどを総合的に評価、レポート	35点			
参考文献と資料		テキスト： 回数 1～10 看護研究サポートブック (メヂカ出版) 回数11～15 看護学概論 基礎看護学① (メヂカ出版)					
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験		看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。					